

## 令和六年第一回薩摩川内市議会定例会 施政方針と予算の概要

### 一 はじめに

令和六年第一回市議会定例会に当たり、市政の状況並びに施策に関する所信の一端を申し上げますとともに、提案いたしました令和六年度当初予算案等の概要を御説明し、議員各位並びに市民の皆様への御理解と御協力を賜りたいと存じます。

まず、先月一日に発生いたしました令和六年能登半島地震によりお亡くなりになられた方々に、心から哀悼の意を表しますとともに、被災されました全ての方々にお見舞い申し上げます。被災地の一日も早い復旧・復興をお祈りしております。

本市におきましては、現在、被災地を支援するため、日本赤十字社義援金箱を市内三十四箇所に設置するとともに、原子力発電所立地自治体である石川県志賀町に対するふるさと納税の災害支援代理寄附金の受付を行っております。また、被災された方々が本市に避難される場合には、市営住宅の提供や水道料金等の負担軽減、移動支援・生活支援等を実施することとしております。今後も、関係団体・機関等と連携を図りながら、被災された方々に寄り添った支援を行って参ります。

さて、年始の恒例行事である消防出初式を、先月六日及び七日に開催いたしました。四年ぶりにコロナ禍前とほぼ同内容で式典を執り行い、消防隊による規律厳正な訓練や演技が披露され、日頃の訓練や消防団活動に対し、感謝の言葉を述べたところでもあります。近年、激甚化・頻発化する自然災害の脅威から、市民の皆様の安全・安心を確保するために、令和プロテクト・トークにおける意見等も踏まえながら、消防団や消防後援会をはじめ、関係機関と市が連携を図り、防災体制の維持・改善に努めて参ります。

先月七日には、二十歳のつどいを開催し、参加された方々の新たな門出を祝い、エールを送りました。会場内は、厳かな雰囲気の中にも、久々の再会を喜ぶ笑顔で溢れ、二十歳を迎えられた方々にとって、思い出を振り返りながら、決意を新たにする機会となったところでもあります。本市発展の新しい原動力となる、希望に満ちた若い方々の活躍を大いに期待しております。

永き伝統を誇る川内大綱引について、先月十九日に、国の文化審議会が重要無形民俗文化財に指定することを文部科学大臣に答申いたしました。これまでこの伝統行事の保存・継承に御尽力いただきました多くの方々に、改めて心より敬意を表します。今後、官報告示を経て、指定となりますが、これを契機として、

川内大綱引の歴史的な価値について更なる情報発信を行うとともに

に、川内大綱引保存会の皆様による未来への継承に向けた取組を、引き続き支援して参ります。

先月二十日から二十三日まで、薩摩國広域輸出促進協議会の海外プロモーション事業として、香港・マカオでトップセールスを実施いたしました。現地のホテルレストランや貿易商社等を訪れ、協議会を構成する薩摩川内市、阿久根市、日置市の産品等について、対面で魅力を伝えるとともに、マカオ市内の百貨店で開催した「薩摩國食品フェア」において、来店された方々に直接PRを行ったところであります。今後も、官民一体となって、広域による産品輸出に取り組み、貿易促進につなげて参ります。

先月二十七日には、原子力発電所に関する総合的な理解を深めるため、薩摩川内市、原子力規制委員会原子力規制庁、内閣府、経済産業省資源エネルギー庁、鹿児島県及び九州電力株式会社の六機関が出席し、「川内原子力発電所に関する市民セミナー」を開催いたしました。私から、川内原子力発電所一、二号機の運転期間延長の容認に関する判断の経過や、昨年十二月二十五日及び二十六日に市議会・大田黒博議長と共に実施した安全運転管理等に係る要望について説明したほか、各機関から川内原子力発電所に関する取組等について御説明いただきました。説明後には、市民の皆様から頂いた、能登半島地震を踏まえた原子力防災対策や国のエネルギー政策

など、原子力発電に関わる広範な質問に対し、各機関の方々から丁寧な回答を頂き、現状や課題等を共有いたしました。今後においても、「原子力発電所立地自治体」として、市民の安全・安心の確保を第一に、広聴広報を基本姿勢としながら、原子力発電の安全性及び原子力防災対策の向上、立地地域の振興に最善を尽くして参ります。

また、本月十日には、薩摩半島西方沖を震源とする最大震度七の地震発生による川内原子力発電所の外部電源喪失等を想定した鹿児島県原子力防災訓練を、鹿児島県、薩摩川内市とUPZ内の八市町の主催により実施いたしました。地域防災計画に基づく訓練を実施する中で明らかになった課題や能登半島地震を踏まえた対策等については、今後も、鹿児島県をはじめ、関係機関と十分に協議を行い、原子力防災対策の更なる実効性向上に生かして参ります。

なお、先般、職員の道路交通法違反等の不祥事により、市民の皆様に対し、多大な御心配と御迷惑をお掛けしましたことに、深くお詫び申し上げます。全職員に対しまして、改めて道路交通法の遵守を指導したところであり、今後も、市民に信頼される市役所づくりに全力を注いで参ります。

## 二 施策の概要

第二百十三回通常国会の施政方針演説において、岸田文雄内閣総理大臣は、賃上げや設備投資、株価など、日本経済が新たなステージに移行する明るい兆しが随所に出ていることを踏まえ、「これまでの積み上げを形に」し、国民が「成果を実感していただく年」とするため、総力を挙げて取り組むことを訴えました。

このような中、本市においては、令和三年六月の薩摩川内市未来創生SDGs・カーボンニュートラル宣言の趣旨を踏まえ、誰一人取り残さない持続可能で魅力的なまちづくりを更に力強く推進していく必要があります。

特に、令和六年十月には、市誕生二十周年を迎えることから、この節目を市民の皆様と共に祝い、郷土愛と一体感の醸成を図りながら、アフターコロナの未来に向けて更なる飛躍を目指して参ります。また、令和六年度は、本市誕生以降取り組んできた、新市の一体感の醸成、地域自らが主体となった地域づくり、市内外への積極的な情報発信、快適で利便性の高い社会基盤の整備・充実、さらには、持続可能なまちづくり等の施策展開を振り返り、人口減少の進行による社会経済情勢の変化などの時代の潮流を踏まえた、市政の新たな羅針盤となる第三次総合計画を策定する大変重要な年となります。

これらに取り組みつつ、行財政運営においては、少子・高齢化の

進行に伴う社会保障関係経費や、公共施設等の維持管理経費などの経常的経費の増加が続いている状況にあることから、なお一層の健全で持続可能な財政構造を確立する必要があります。

このような状況を踏まえて、本市の令和六年度の施策展開においては、「子ども・子育て」、「コミュニティ」、「産業人材確保・移住定住戦略」、「SDGs・カーボンニュートラル」、「DX（デジタル・トランスフォーメーション）」、「市誕生二十周年記念」の六項目にポイントを置き、予算の選択と集中を図りながら、新たな行政課題の解決に積極的に取り組んで参ります。

「子ども・子育て」につきましては、児童福祉法の改正を踏まえ、本年四月から保健福祉部に「薩摩川内市こども家庭センター」を設置するとともに、産後ケアの更なる充実、共働き・共育ての応援等を行い、引き続き、安心して子どもを産み育てられる支援の強化に努めて参ります。また、子ども医療費の助成や学校給食費への補助に電源立地地域対策交付金を活用し、財源確保を図るなど、子育て支援の充実に取り組んで参ります。

「コミュニティ」につきましては、ゴールド集落支援制度を継承しつつ、自治会や地区コミュニティ協議会に対する交付金・補助金制度を大幅に見直します。加えて、当該組織が所有する防犯灯の電気料金相当額を市が負担するなど、自治組織運営支援の拡充を図り

ます。また、新たに、テレビ難視聴自主共聴組合が所有する共同受信施設の維持管理経費の支援等を行い、地域活動への参画意識や協働意識の醸成を図り、地域力の向上に努めて参ります。

「産業人材確保・移住定住戦略」につきましては、既存の人材確保・移住定住施策を継続しつつ、就業及び移住定住の更なる促進を図るために、奨学金返還支援制度の拡充とともに、高校生等の市内就職を奨励する取組を実施いたします。また、薩摩川内市産業人材確保・移住定住戦略協議会の構成団体等とも連携を図りながら、医療・介護・保育のほか、農林水産、建設、地域公共交通など、多様な分野における人材確保・育成に積極的に取り組んで参ります。

「SDGs・カーボンニュートラル」につきましては、現在、「薩摩川内SDGsチャレンジ」を合言葉に、市民の皆様や事業者などと連携し、「サーキュラー都市・薩摩川内市」の実現に向けて取り組んでおります。この気運を更に醸成するために、SDGsに資する行動にポイントを付与する取組をスタートいたします。また、トイレタリー商品プラスチック包装容器の分別回収事業の継続や甌島区域における生ごみの処理対策の調査への着手など、資源循環の促進に取り組み、二〇三〇年のSDGsの達成、二〇五〇年のカーボンニュートラルの達成を目指して参ります。

「DX（デジタル・トランスフォーメーション）」につきましては

は、デジタル田園都市国家構想総合戦略に基づき、デジタル地域通貨プラットフォーム「つんPay」を活用し、地域内経済の循環を促進するとともに、地域医療介護情報ネットワーク「かごネット」の利用推進を図り、デジタル技術を活用した地域課題の解決に取り組み、スマートシティの実現を目指して参ります。

「市誕生二十周年記念」につきましては、記念式典やイベントなどの記念事業の実施を通じて、市政発展に御尽力いただきました方々を表彰するとともに、特産品等の販売促進や販路拡大、次世代を担う若者の交流、憩いと安らぎを与える森づくり等に取り組みます。

これらの六項目にポイントを置きながら、市民生活の安定、地域経済の発展に向けた施策を総合的に推進して参ります。

医療・社会福祉の充実につきましては、障害児支援の質の向上等のため、児童発達支援センターの機能の強化を図るとともに、高齢者の介護予防や生きがいをづくりにつながる活動を支援するなど、健康やかに生き生きと暮らせるまちづくりを進めて参ります。また、甌島医療に関しましては、（仮称）上甌島診療所の整備に向けた実施設計等を行い、新たな体制の構築を図って参ります。

農林水産業の振興につきましては、持続可能な農山漁村の基盤整備・保全を図るとともに、経営基盤の強化による生産性の向上を支

援し、農林漁業者の所得向上に努めて参ります。

商工業等の振興につきましては、市内事業者の特産品開発等の支援を継続するとともに、中小企業のDX促進に取り組みます。また、川内港久見崎みらいゾーン、入来工業団地等への産業立地を推進するとともに、高城産業用地等の整備を着実に進めて参ります。中心市街地においては、川内文化ホール跡地に整備が進められている「センノオト」の今春開業に併せ、向田公園の整備を進め、商店街等との回遊性向上を図って参ります。

観光振興につきましては、観光プロモーションやイベント支援の強化を図るとともに、東部区域の観光資源等を活用した誘客促進を図ります。さらに、ふるさと納税につきましては、更なるPR促進、返礼品の掘り起こしに取り組んで参ります。

文化振興につきましては、川内大綱引の国の重要無形民俗文化財指定の記念事業を実施するとともに、伝統芸能及び愛着のある地域文化の保存・継承を支援して参ります。

スポーツ振興につきましては、市民が気軽にスポーツを楽しむ場として、新たにスポーツフェスタを実施するとともに、全国市町村交流レガッタ薩摩川内大会を開催し、交流の促進を図ります。また、国体開催後の持続的なスポーツの振興にも取り組んで参ります。

防災・減災、国土強靱化及び社会基盤の整備につきましては、防

防災強化のために、防災行政無線システムの更新を行うとともに、近年、増加している空家の実態調査を実施いたします。また、川内川河川改修事業や流域治水対策、川内川高潮対策の促進により、防災基盤の整備・保全に努めます。南九州西回り自動車道阿久根川内道路については、着実に整備が進められており、早期完成に向け、関係機関と一体となった国への要望活動を実施して参ります。重要港湾川内港については、国直轄による耐震強化岸壁の整備や県による埠頭用地の整備が令和七年度末の暫定供用開始に向けて進められており、能登半島地震の状況を鑑み、川内港の早期の整備促進及び港湾機能の充実を強く要望して参ります。特に、川内港における国際コンテナサービスの継続のためには、ガントリークレーンの整備が必要であると考えております。さらには、川内港から南九州西回り自動車道を経由し、北薩横断道路までを結ぶ川内宮之城道路についても、早期建設の実現に向け、関係機関との連携・調整を行うて参ります。

教育の振興につきましては、学校校務支援員の増員や部活動の地域移行支援を進め、教育指導等の充実を図るとともに、学校トイレの洋式化や特別教室への空調設備の整備に早急に取り組み、子ども達の快適な教育環境の確保を推進して参ります。また、本年四月からの祁答院小学校の開校に当たり、新たな体制の下、円滑な学校運

営に努めるとともに、統合により閉校となる学校の跡地利活用に向けた整理も進めて参ります。

消防行政につきましては、令和四年度から整備を進めてきた、さつま町及び阿久根地区消防組合との消防通信指令に関する事務の共同管理に向けた通信指令センターの完成を目指して参ります。また、消防職員・団員の資質の向上や消防団員の処遇改善に取り組むとともに、機動性を高めるために、消防資機材の年次的な整備や装備の充実を図って参ります。

以上、施策の概要を述べましたが、令和六年度には、市誕生二十周年を迎え、また、市長就任以降、広聴活動等により進めてきた、令和七年度から十年間の市政経営の指針となる第三次総合計画を策定することから、本市がこれまで積み上げてきた歴史を未来へとつなぐ年と位置付けております。本市の未来を創造し、中期的展望に立って、市民の皆様とともに、「薩摩川内市の未来創生」の実現に向け、まい進する所存であります。

### 三 予算の大纲

令和六年度当初予算案においては、予算編成方針に基づき、第二次総合計画及び総合戦略に基づく施策、アフターコロナを見据えた

薩摩川内市の中期的展望及び未来創生一〇ビジョンの実現に係る事業の着実な進展を図るとともに、薩摩川内市SDGs・カーボンニュートラル宣言や薩摩川内市SDGs未来都市計画の趣旨を踏まえ、持続可能で魅力的なまちづくりに向けた予算を編成したところであります。

これらの結果、一般会計当初予算の規模は、前年度当初予算に比べ、五・五パーセント増の五百七十五億六千万円となりました。また、温泉給湯事業など九つの特別会計は、合計で二百五十八億四千四百九十三万四千円となったほか、水道事業など三つの公営企業会計は、合計で五十六億九千九十九万円となりました。

なお、令和六年度においても、年間予算として編成したところでありますが、特定離島ふるさとおこし推進事業など採択状況を見極める必要があるものにつきましては、六月期の補正予算案として提案する方針でありますので、御理解をお願いいたします。

#### 四 むすび

今定例会におきましては、町の区域の設定及び変更についてをはじめとする各議案の御審議をお願いしておりますが、会期中に第三次薩摩川内市総合計画基本構想を定めるについて等を追加提案さ

せていただく予定でありますので、御了承を賜りたいと存じます。

提案いたしました各議案の細部につきましては、主管部局・課長等から説明させますので、何とぞ慎重なる御審議を賜りますようお願い申し上げます。私の施政方針といたします。